

内視鏡的胃瘻造設法、胃瘻カテーテル確認法の用語について

PEG・在宅医療研究会 学術・用語委員会
委員長 小山 茂樹
(社会医療法人誠光会 草津総合病院 副院長)

PEG・在宅医療研究会(旧称 HEQ 研究会)学術・用語委員会では、PEG に関する用語について今まで委員会において議論し、その結果を HEQ 研究会および当研究会誌に報告してきました。しかし、Seldinger PEG、Direct PEG 等の名称で呼ばれる新しい造設手技の普及により造設名についての混乱があります。また、胃瘻カテーテル交換後のカテーテル確認に関しては、重要な事項であり、その確認法の統一が必要です。

PEG を安全な手技として普及させるには、用語を統一し、十分議論し、エビデンスを確立する必要があります。そのため、現在混乱が生じている内視鏡的胃瘻造設法、胃瘻カテーテル交換確認法について、第 8 回 HEQ 学術・用語委員会、その後の委員間でのメール審議、第 9 回 HEQ 学術・用語委員会、第 14 回 HEQ 世話人・常任幹事会、その後委員間においてメール審議による最終確認を経て下記の如く決定しました。

今後は、研究会、学会、論文等ではこの用語に従い発表していただけるようお願いいたします。
(当研究会ニュースレター第 6 号より)

用語：内視鏡的胃瘻造設法の手技名

内視鏡的胃瘻造設法には、造設用胃瘻カテーテルを口腔・咽頭を通過させ、胃内腔から腹壁外への経路にて造設される Pull / Push 法 と、造設用胃瘻カテーテルを口腔・咽頭を通過させず、腹壁外から胃内腔への経路にて造設される Introducer 法 に2分類される。Introducer 法 は更に、トロカール針を用いて穿刺するものと、血管留置針を刺入し瘻孔をダイレーターで拡張する2方法がある。胃瘻カテーテルは、前者はバルーン型、後者はバンパー型になる。前者にて造設される場合を Introducer 原法 (Original Introducer Method)、後者を Introducer 変法 (Modified Introducer Method) と表記する^(注)。

(注) : Introducer 変法 に用いる造設用器具は カンガルーセルジンガーPEG キット と オリンパス Direct イディアル PEG キット の2種類がある (2009/09 末)。(なお、表記には Modified Introducer Method (Nippon Sherwood Medical Industries Ltd. Kangaroo Seldinger PEG / Olympus Co. Direct IDEAL PEG) とする。)

用語：胃瘻カテーテル確認法

胃瘻カテーテル確認法には、直接確認法と間接確認法がある。直接確認に属する方法は 胃瘻カテーテルの先端及び内部ストッパーが胃内腔にあることを視認 できる方法で、間接確認法は 胃瘻カテーテルの先端及び内部ストッパーが直接視認できないが、何らかの方法で胃瘻カテーテル先端が胃内腔にあることを確認 できる方法である。胃瘻カテーテル直接確認法には、内視鏡による確認、内視鏡以外の画像診断による確認法 がある。経口内視鏡、経鼻内視鏡、経胃瘻カテーテル内視鏡により、胃瘻カテーテル先端及び内部ストッパー全体の確認がなされた場合のみを内視鏡による直接確認とし、内部ストッパーの一部の確認は直接確認法とはしない。その他の画像診断とは、エコー、CT、MRI などによる検査をさし、胃瘻カテーテルの先端及び内部ストッパー全体が確認される方法を直接確認法とし、その一部の確認は直接確認法とはしない。間接確認法には透視を用い、空気を胃瘻カテーテルから注入し、胃内腔を膨らませ、カテーテルを開放することで、胃内腔が脱気することを確認する方法や、造影剤を注入し、胃皺壁を確認する方法などがある。また、胃内容物を確認するリトマス法、pH法 (胃内容確認法) や何らかの液体を注入し、それを回収するスカイブルー法、お茶注入法、栄養剤回収法、スポーツドリンク回収法など (注入液体回収確認法) がある。なお、空気注入脱気確認は一種の注入液体回収確認法である。間接確認法は、内部ストッパーが胃内腔に存在せず先端のみ胃内腔にある場合でも確認でき、胃瘻カテーテルの回転など何らかの方法で内部ストッ